

2013年4月1日



© Kensaku Seki

三脱の教え

GNH研究所 代表幹事 平山修一

初対面の人と話すときに何を話してよいのか迷った経験はありませんか。最近では人に紹介されることも少なく、自己紹介をする機会もあまり無いので、見知らぬ人との会話の取っ掛かりを探すのが難しいことがしばしばあります。

ブータンは時間をかけて人物の様子見をする文化です。日本人は第一印象等ですぐに相手を信用します。しかしブータン人は第一印象で人を悪く判断はしますが、信用はしません。じわじわじっくり相手を見聞して心を徐々に開いていきます。

またブータンでは初対面の人との会話に必ず聞くことがあります。「結婚はしているのか、子供はいるのか、どこから来たのか、どこで働いているのか…」と根掘り葉掘り聞かれます、何故でしょう。

これは相手の立場や地位を知った上でないと話ができないという文化があるためです。しかし初めてこの洗礼を受けた人はたいていびっくりします。また独身だと言おうものなら「何故結婚しないんだ」

などと余計なことまで聞かれたりします。これはやりすぎかもしれませんが…。

時代は変わって江戸時代。江戸の商人の間ではお客さんとの会話をするコツとして「三脱の教え」を番頭さん以下奉公人に周知したそうです。それは初対面の人には年齢・職業・地位を聞かないという会話の礼儀の事です。

基本的に【今日はいいい天気ですね】から始まり、地域の四方山話、お客さんの身に着けているものを褒めたり、その見立てを褒めたりすることから会話を広げる工夫をしました。今風にいうとセールストークを練習したんですね。このようなたわいない会話を続けることでお客さんの情報を得る努力をしたのでしょね。

日本人はいつの間にか無駄な会話をするのが苦手になった気がします。特に雑談が出来ない人が多いのではないのでしょうか。何気ない会話から相手の人物を判断できる会話力、身につけたいところですね。

コラム① ゲレフ温泉で考えるGNH

平山雄大

ブータン南部サルパン県の中心都市ゲレフから約15キロ、シェムガン県へと向かう道を外れて坂を下った川沿いにゲレフ・ツァチュ（温泉）がある。まったくもって時期外れのとある夏の昼下がり、一風呂浴びに出かけた。

温泉の周囲はレンガ造りの壁で囲まれ、一見ただけでは温泉なのか何なのか分からない。「むむむ、なかなかの秘湯感を漂わせている」等と感想を漏らしつつ周囲を見渡すと、仏像やチョルテン、ルンタ等と並んでシヴァ神の肖像が掲げられていたり、石のリングが置かれていたりヒンドゥー教の影響も色濃い。やはり南部である。浴槽は5つ。そのうちの4つは円形で、高い壁に覆われており井戸を彷彿とさせる。この温泉は、数段の階段を下りて外部と遮断されたその井戸的浴槽に浸かる、という斬新なスタイルなのである。快適なのかどうなのか正直よく分からない。日本人の感覚からすると湯の温度はあまり高くはない。それぞれの浴槽で微妙に温度を違えている。夏場だったので閑散としていたが、冬には湯治客で溢れかえるという。

温泉から歩いて数分のところに、平屋の宿泊施設があったので行ってみた。閉められていて中に入ることは叶わなかったが、冬場は開放し、湯池客は自由に使えるとのこと（布団等は持参）。ただし収まりきらないので、周囲にはテントも張り巡らされるらしい。

この宿泊施設の壁に、「1968年1月16日、ドゥルック・ギャルポ・ジグメ・ドルジ・ワンチュクによって開かれた」と書かれた石板が埋め込まれていた。40年以上前に第3代国王がこの地にいらしたのだろうか。史実を紐解くと、確かにこの年、第3代国王は当時12歳だった皇太子（後の第4代国王）と、皇太子の2人の姉君アジ・ソナム・チョデン、アジ・デチェン・ウォンモを伴って1月11日にティンプーを出発し、ブータン南部・東部の視察旅行を行っている。第3代国王御一行は、あるいは、ゲレフ温泉で旅の疲れを癒したのかもしれない。

それから4ヵ月後、5月12日にリンブン・ゾン（パロ・ゾン）で開催された第28回国民議会（国会）開会式において、第3代国王は以下のように述

べられた。「もし開発の結果、国民が損害を受けるようなら、国を開発する意味はない。結局のところ、開発の目的は人々を豊かにし幸せにすることにある。」

GNHは、第4代国王がそう名付ける以前より国の開発を考える哲学として存在していたと考えられるが、その事実を的確に示している言葉だと言えよう。また、既に広く知られている通り、同年秋の第29回国会において、第3代国王は国王拒否権を全面放棄し国会での決議を最終決議とする旨を勧告し（同国会において承認）、同時に国会の不信任投票による国王弾劾法を提案している（翌年の第30回国会において承認）。国民の幸福を第一義とする開発哲学、さらには民主化に向けた急進的な政治改革がどのような過程を経て構想に至ったのか、第3代国王亡き今解明することは困難を極めるが、1968年初頭の南部・東部視察旅行をはじめとした一連の地方行脚が構想に至るベースとなっているであろうことは想像に難くない。

ゲレフ温泉の宿泊施設に埋め込まれた石板からGNHに想いを馳せるのも、また一興。温泉の横を流れる川の対岸には、ツァマカイ・メトが実る樹木が茂っていた。



平山 雄大（ひらやま たけひろ）

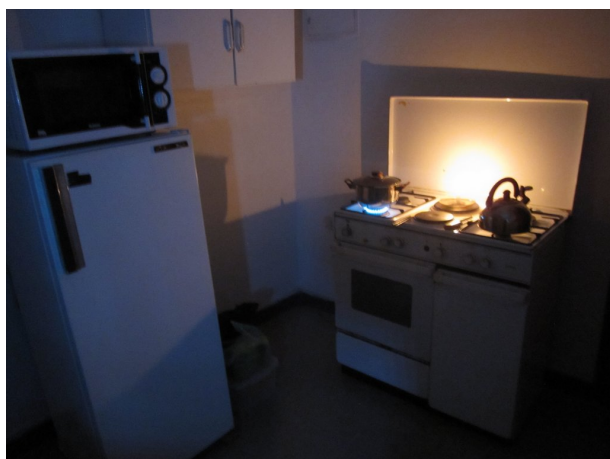
GNH研究所 研究員

早稲田大学教育・総合科学学術院 教育総合研究所助手。ブータンの近代学校教育史を研究中。

コラム② しっとりした幸せ

瀬畑陽介

ブータンを振り出しに、延べではあるが“国際協力”という仕事を通じてかれこれ7年程の海外途上国生活をいる。その多くの国は首都でも大きなショッピングセンターはなく、これと言った娯楽もない環境が続いている。週末の楽しみと言えば、自転車乗り、ウォーキングに、テニスくらい。テレビがあっても殆ど見ないので、22:00頃には就寝という健康的な生活をしている。時には夜にも関わらず、停電が起きて“ランプの宿”でもないのに、ローソクに火を灯して薄暗い中で用事を済ませることもある。また、断水の不安を感じながらシャワーを浴びたりもしている。国際協力業界で働いている多くの人は、多かれ少なかれ似た様な環境で生活をしているのではないかと思う。



一般的な途上国生活では、娯楽や、買い物といったオプションが少ないだけに、特に家族で生活をされている方々は、夫婦、そして家族で向き合って生活する時間が、自然と日本のそれよりも長くなっている。また、ご近所の大多数は当然ながら日本人以外。そのため家族で、もしくは夫婦で喧嘩しようが、仲良かろうが、常に向き合って生活するしかない。喧嘩をしても「実家へ帰らせて頂きます」なんて容易にできないので、向き合って話し合い、仲直りをするしかない。基本的に生活環境も楽ではないので、自ずと家族で支えあって生活をせざるえない環境である。

これだけを見ると“途上国での生活”というのは、とても退屈で、不便きわまりない環境で、良い事がまるで無い様に見られても当然であろう。しかし、これまで、そして今現在も、こうした途上国で生活をしている日本人の友人、そしてそのご家族（奥さん、お子さん等）を含めて、皆良い顔をしている様に思う。端から見ても夫婦、家族の仲が良いのを感じる。派手さは感じないが、そうした表情、仲から何か“しっとりとした幸せ”を垣間見ることができる。

生活上、様々なオプション（娯楽、買い物、旅行、仕事、夫婦関係等）が存在する日本。それに対してオプションが少なく、日本に比べてシンプルな生活環境の途上国生活。もしかしたら“シンプルな生活”に幸せに暮らすヒントがあるのではないかと感じる。

瀬畑 陽介（せはた ようすけ）

GNH研究所 研究員

元ブータン派遣JOCV、元国連ボランティア。現在、笹川アフリカ協会 IT Managerとしてエチオピアのアディスアベバにて業務についている。

バンコクサロンの様子。



バンコクサロン報告 2013年2月9日開催

文責 平山修一 (GNH研究所 代表幹事)

●会合概要

- ・日時 2013年2月9日 (土) 9:30~13:00
- ・場所 バンコク日本語キリスト教会 (BJCC)

●内容

①アイスブレイク

アクティブリスニングワーク

②ワールドカフェ

【議題1】タイから何を私たちは学んだのか

- ・日本は自分は何を大切にしているか、これが明確ではないのでは?→タイは明確
- ・日本は逆算(減点)文化、タイは流れの文化、その場の流れや雰囲気が一番重要視する。
- ・カウチャイ(理解する・・・タイ語)の原義は「心に入る」、頭に入ることではない。心に入って始めて心が理解する。
- ・多様性が共存しやすい社会、しくみ→これは精巧に設計されている。
- ・日本は暗い、タイは明るい。社会の雰囲気を大人が積極的に作っている。
- ・人を受け入れる姿勢、排除ではなくまず受け入れる姿勢。
- ・心がどう思うかが全ての判断基準→これにそった行動をとった人を責めない文化。
- ・差別や区別をあまりしない→しかし階級意識は根強くある。

【議題2】タイでの経験を私たちはどのように自分や社会に活かすのか

・お金をかけずにできる放任と結束の仕組み→このバランス感覚を常に心がける。全面的に信用=思考停止、思考停止はしないで常にすべては移り変わるものと考え行動・思考する。

・自分の殻を破る努力→自分に(自分の心に)タメを常に持つことを心がける。

・食が保障されることが大事。食がお金や他者に左右されない自分を取り巻く生活環境は、自分自身の仕事や社会への参加態度に影響を与える。

・自分の行動を変える。1.怒らない、2.ルーズな部分を持つ、3.隙を見せる。

・常に鏡を見て自分がどんな表情で仕事をしているのかチェックする。

・間違いを恐れない、ポジティブ思考で行動する、結果は二の次。

・多様な価値観を否定しない。人の意見を同意していなくても一旦は受け入れる。

・ゴールを設定してプロセスを詰めるのではなく、日常のプロセス一つ一つに真剣に向き合い、心で判断する。

・言いにくいことでも言わないと変わらないものは積極的に言うことも中年の社会への義務。

●雑感

内容の濃いワークが出来ました。中々独りでは自分の経験を整理し、どう活かすのかをまとめることは難しいと思います。こうして定期的に自分の存在意義や問題意識をトリートすることは大切であると感じました。次回は4月第3週目に開催予定です。



東京定例会合の様子。

東京定例会合報告 2013年3月3日開催

文責 斉藤光弘（GNH研究所 東京事務局）

●会合概要

- ・日時 2013年3月3日（日）10:00～13:00
- ・場所 JICA地球ひろば（市ヶ谷）

●内容

- ①GNH研究所 研究員・平山雄大講演「徹底検証 GNHの誕生・広がり」
- ②GNH研究所のこれからの活動について

① 研究員の平山が昨今のGNH研究に関して持っている、(1)「範囲が広くなりすぎて何か地に足がつかない」、(2)「ブータンにおけるGNHに対する言説を精査せずに論を展開しているものが少なからず見受けられる」といった問題意識のもと、ブータン発の言説と資料に立ち返り、「ブータンにおけるGNH」の歴史が紐解かれました。

発表の冒頭で、リサーチ・クエスチョンとして「第4代国王が構想に至った背景は?」、「GNHが対外的に発信されたのはいつ、どのようにしてか?」、「GNHが国際的に認知されるようになったきっかけは?」の3つが提示され、先行研究や各種資料の詳細な分析を通してそれらへの回答が導き出されました。

一次資料を入念に確認し、先行研究の中で散見される誤った認識を検証する展開には、ミステリー小説を読むかのような面白さがありました。今回は、平山さんが取りまとめている幅広いテーマの中の導入部分だけの発表でしたので、会員の皆様からは、他

のテーマについても話を伺いたいという、声が上がっていました。

② 新しい年が始まったとともに、3月から事務局もメンバーも入れ替わり、新しい体制がスタートしました。3年くらいの少し長い時間軸で考えた場合、GNH研をどのような組織にしていきたいか？ GNH研でどのようなことを行いたいか？ GNH研でどのようなことを学びたいか？ について、参加者全員で、対話の場を持ちました。

組織活動は、いつの間にか、組織を存続すること自体が目的化してしまう部分もありますが、こうして定期的にGNH研が存在することの意義を皆さんで共有するのはとてもいい時間だと思います。

出された意見としては、“研究所”として、外部の方向けに研究成果を取りまとめた資料の作成やFacebookやTwitterを活用し、アウトプットを意識する点や、地方での会合の開催や東京での会合の内容をUstreamで公開するなど、東京での会合だと参加が難しい会員にどのように情報共有を図るかという点が挙げられました。また、初めて会合に来た方でも楽しめる、GNH研ならではの雰囲気大切にしたいという意見も挙げられました。出された意見は整理し、また皆様と共有させていただきます。

次回会合は、2013年6月15日（土）に開催予定です。（通常、東京定例会合は四半期に一度の開催）

掲示板

- [講座] 「第3回ブータン文化講座『ブータンを見つめた京都大学との56年』」(要申込) <http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/event/2013/03/356.html>

日 時：4月16日(火) 17:00～19:00 (16:30開場)

講演者：栗田靖之(国立民族学博物館 名誉教授)

場 所：京都大学稲盛財団記念館3階 大会議室(京都市左京区吉田下阿達町46)

参加費：無料

申 込：お名前・ご所属・返信用メールアドレスを明記の上、kokoro-event@educ.kyoto-u.ac.jpまで件名を『第3回ブータン文化講座 申込』としてお送りください。

主 催：京都大学こころの未来研究センター ブータン学研究室主催

- [研究発表] 「第3回日本ブータン研究会」(要申込) <http://kokucheese.com/event/index/80644/>

このたび、ブータンをフィールドに研究を行っている若手研究者や大学院生が日頃の研究成果を披露し、

意見交換を行う場として、「第3回日本ブータン研究会」が開催されます。内容詳細は、上記URLをご確認ください。

日 時：5月12日(日) 10:00～(9:30開場)

場 所：早稲田大学(早稲田キャンパス)7号館114教室(東京都新宿区西早稲田1-6-1)

参加費：500円(会場使用料、資料印刷代として)

申 込：「1. 氏名、2. 所属、3. 連絡先(携帯電話番号及びメールアドレス)、4. 懇親会参加の有無」をメール本文に記載し、日本ブータン研究会事務局(bhutanstudies@gmail.com)までお申込みください。

主 催：日本ブータン研究会実行委員会

編集後記

● 今春より、このニュースレターの編集担当の他に、GNH研究所 東京会合の事務局を務めさせていただくことになりました。古参の方も、新規の方も、共に楽しんで学んでいけるような会を開いていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。(藤原整)



© Kensaku Seki

GNH研究所 ニュースレター 第5号

発行元 GNH研究所(代表幹事：平山修一)

<http://www.gnh-study.com/>

発行日 2013年4月1日

編集者 高田忠典(GNH研究所 研究員)、藤原整(GNH研究所 研究員)

著者 平山修一(p.1,4)、瀬畑陽介(p.2)、平山雄大(p.3)、齊藤光弘(p.5)

写真 関健作(p.1,6)、瀬畑陽介(p.2)、平山雄大(p.3)、平山修一(p.4)、須藤伸(p.5)

※全ての著作物および写真の著作権は、上記の方々に帰属しています。